

校区まちづくり組織活動紹介 第6回

錦浦校区の取り組み

明石市内の各小学校校区では、それぞれの地域の実情に合わせたまちづくりを進めています。広報紙「明石のまちづくり」では、市連合まちづくり協議会の広報部会が取材した先進的な活動を紹介しています。

地域みんなで楽しめる『世代ふれあい交流会』、夏休み最後の思い出づくりの『さんぽつ子フェスティバル』など、以前から多彩な取り組みが活発な錦浦校区。平成30年のまちづくり計画書策定を経て、子どもに関する活動も活性化しており、校区内の団体や学校との連携を一層強めています。

今回は、そのきっかけや運営の工夫を錦浦校区まちづくり協議会（以下…まち協）の皆さんに伺いました。

まち協で運営する子ども食堂

「計画書策定に向けて議論を重ねていた平成29年3月、新しい試みとして、こども食堂『錦ヶ浦キッチン』を始めた。」と紹介するのはまち協事務局長の吉久さん。



▲奥側左から、河野さん、中嶋さん、吉久さん、濱本さん

きっかけは、単位自治会の、一人暮らしの高齢者を対象としたボランティアグループ「ほほえみ会」からの「錦浦校区でも子ども食堂を始めませんか？」という声掛けだったそうです。その後、資金面や開催場所の課題はありましたが、助成金や学校の協力による家庭科室の利用によって、無事スタートを切りました。現在は、ボランティアグループ、民生委員・児童委員、子ども会、まち協の募集に手を挙げてくれた方々の約30名のボランティアがチームにわかれて毎月2回開催しています。

「最近では、参加者が50名を超える回があったり、卒業して中学生になった子たちが参加してくれたりと校区内で活動が定着してきている。次の課題は、食事前の時間を有意義に過ごせる居場所づくり。この点を充実させるために、明石高専の学生たちと連携を始めた。学生たちにとっては初めての経験だが、試行錯誤しながら企画を検討してくれている」と吉久さんは熱く語られました。

校区見守り体制の見直し

まち協副会長の中嶋さんから、今、力を入れているのは、子どもたちを見守るスワール



▲スクールガード交流会では各自の立ち位置を共有

ガード体制の見直し。7月には初めて、登録者同士の交流の場を持った」と紹介がありました。「これまで自治会中心に活動してきたが、改めて校区全体で整理すると、活動実態のない登録者が沢山いることが分かった。そこで、名簿上の登録者約600名に往復はがきを送り継続の意思確認をしました」と話すのは、取りまとめを担当した事務局員の濱本さん。調査の結果、実働する64名の方を確認できました。交流会では、各自の立ち位置を地図に集約して見守りのムラを確認したり、学校と今後の方策を検討したり、具体的な議論が行えたそうです。

「新しい事業を立ち上げるのも大切だけど、既にある活動を見直したり、何か足してみたりという発想も大事」と濱本さんは振り返られました。

テーマでつながる・連携する

事業の展開において校区内の団体や学校との連携が盛んな印象を受ける錦浦校区、この秘訣はどんなことがあるのでしょうか？

伺ったところ、『まちづくり計画書ができただけで、錦浦は1



▲取材後はこども食堂に参加させていただきました

つにならないといけない」ということを、まち協会長小林さんは意識されているようです。この思いのもと、各種団体が個別に行っている活動にまち協の各部会が協力したりと、校区が一体となつて取り組む活動が増えてきました。

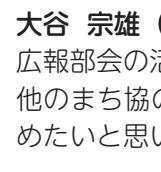
子ども部会長の河野さんは「子どもに関する活動が盛んなのは、校区共通の課題としてみんなが関心を持っているからだと思う。例えば、さんぽつ子フェスティバルはもともPTA単独事業だったが、『地域みんなが参加できればいいね』という議論が起こり、校区の色々な団体がブース出展や警備を担っていただけになった」と、子どもをきっかけに連携が進んでいることを話されました。

錦浦校区では今後、こういった連携の輪をどう広げていくかが重要だと考えているとのこと。そのために、広報紙の活用や、こども食堂のボランティアの方のように、テーマに関心を持つ人を巻き込む仕掛けがアイデアとして上がっているそうです。

広報部会より



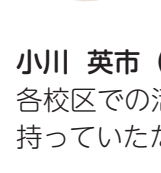
吉川 正博（二見西コミュニティ推進協議会）／部会長
先進的に取り組んでいる各校区を取材し、企画にはまった活動ではなく、地域の特性に応じたまちづくりに役立つ情報を伝えていきます。



大谷 宗雄（二見北まちづくり協議会）
広報部会の活動で、まち協の情報・活動の紹介を行い、他のまち協の参考になるように、真摯な取材・広報に努めたいと思います。



立花 正夫（山手校区まちづくり協議会）
今年も広報部会で活動します。特色のあるまちづくりを進めておられる校区の紹介をします。



小川 英市（沢池校区まちづくり協議会）
各校区での活動を正確にかつタイムリーに伝え、興味を持っていただける紙面づくりに努めます。



田中 耕太郎（人丸まちづくり推進会）
初仕事が錦浦校区のまちづくり協議会の取材でした。質問して、答をいただいて、楽しく学べる活動と感じました。また行きます。

広報部会メンバーが新しくなりました

自治会部会より

新自治会長の悩みを意見交換
―自治会・町内会新会長研修会―

令和元年6月1日にあかし保健所多目的ホールで、自治会・町内会新会長研修会を開催しました。自治会長就任1年未満の対象者217名の内、125名が出席。自治会運営等の全体講義の後、グループで「自治会長として困ったときにどうしていますか」をテーマに意見交換をしました。

▼研修会当日の様子



自治会の脱退・未加入問題、会員の高齢化、役員のなり手不足は全グループ共通の困りごとでした。「災害時の助け合いの必要性を伝えてはどうか」「普段のあいさつから人とのつながりをつくる」など対応策を熱心に議論しました。アンケートでは、「実例を聞くことができた」「自治会の運営方法を工夫したい」など自治会長として前向きに取り組むたいとの感想が多く寄せられました。

困りごと解決の一例

- ◆相談する人がいない
⇒熱心に自治会活動をしている数人に、相談できる体制を整えている。
- ◆役員間の連絡等が難しい
⇒LINE でグループを作り情報共有。
- ◆行事の運営を担う人がいない
⇒行事等を含めたサポーター制度をつくっている。行事はサポーターが中心に運営。